

第4回 高輪築堤跡整備基本計画策定委員会

議事要旨

I 開催概要

日時： 2024（令和6）年6月14日（金曜日）10時00分～12時00分

場所： JR東日本 会議室

出席者： 以下の通り

表出・欠席者一覧（※印はオンライン出席）

委員長	・中井 検裕 氏（東京工業大学 名誉教授）
副委員長	・鈴木 淳 氏（東京大学大学院 人文社会系研究科・文学部 教授）
委員	・内田 まほろ氏（一般財団法人 JR 東日本文化創造財団 TAKANAWA GATEWAY CITY 文化創造棟準備室 室長） ・小野田 滋 氏（公益財団法人 鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・高妻 洋成 氏（独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災センター センター長 奈良文化財研究所 参与） ・古関 潤一 氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー） 【欠】矢ヶ崎 紀子氏（東京女子大学 現代教養学部 教授）
オブザーバー	※文化庁文化財第二課 文化庁文化資源活用課 東京都 教育庁 地域教育支援部 港区教育委員会事務局 教育推進部 港区街づくり支援部 ※公益財団法人 東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 技術監理部 JR 東日本コンサルタンツ株式会社 品川駅北周辺地区市街地再開発準備組合 ※東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部
関係者	※東京都 都市整備局 市街地整備部
事務局	東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部
サポート	パシフィックコンサルタンツ株式会社

II 次第

- (1) 開会
- (2) 前回議事録確認
- (3) 議題内容と策定スケジュール
- (4) 第6章 整備基本計画
- (5) その他

III 議事要旨

1 開会

2 前回議事録確認

3 議題内容と策定スケジュール

- 地下水関係と第7橋梁部の2つのワーキンググループを作り、それぞれ検討されているが、親委員会への報告予定はあるか。(委員)
 - ← 報告事項が出てきた段階で報告予定である。(事務局)

4 第6章 整備基本計画

(1) 高輪築堤跡の展示活用計画について

- 最終的に大きな方向性に基づいてコンテンツと手法を決めたいということと理解した。(委員)
- 旧新橋停車場鉄道歴史展示室や旧横濱鉄道歴史の展示のコンテンツ、施設規模を調査すること。(委員)
- 伝えたい内容とターゲット設定をリンクさせることで展示の優先順位付けがしやすくなる。(委員)
- 「明治という時代背景」を「暮らし」と言い換えたり、「文化」というキーワードを出したりすることで、一般の方に伝わりやすく、今後整理しやすくなるのではないか。(委員)
- 横軸の日常・非日常の区別がよく分からない。特にTAKANAWA GATEWAY CITYの展示施設では非日常的な専門的な展示は行わないとのことだが、ここでの非日常とは何か。(委員)
 - ← 「日常」は、公園部など日常的な場所で地域住民の方の暮らしと密接に関わる部分、「非日常」は、エンタメ性を持ち、観光客やインバウンドの方が関わる部分として設定している。(事務局)
 - ← 日常・非日常の区別がエンタメのようになっているが、「非日常」が展示施設などの専用施設、「日常」が公園など公共性の高い空間での展示、といった場所によるものではないか。(オブザーバー)
- 富岡製糸場が世界遺産に登録された際、トイレ等のインフラが整う前に人が押し寄せ、整った時には既に人が減っていた。高輪も、興味がある人が最初に押し寄せることが想定されるが、同じ状況を避けるために、2027年時点と完成時の2段階のプランとする必要があるのではないか。(委員)
 - ← まちびらきは2025年で、2027年度に史跡指定された2箇所が公開される際は周辺施設が整った状態で見ただけ。その後の運営のあり方は引き続き検討する。(事務局)
 - 「日常」は大切だが、まちとして生きている場所なので、2027年度の段階では「非日常」も有することを認識して整理いただきたい。(委員)
- 明治～明治以降の視点は重要だが、江戸時代は大木戸・東海道があり、東側は海だったということも理解してもらえると良い。(委員)
- 地方から来た人は「品川は宿場町」というイメージを持っている。品川宿を説明するものはどこかに必要ではないか。(委員)

← 八ツ山橋を境に行政区が分かれており、宿場町としての品川宿と商業的な高輪エリアは棲み分けられているので、品川宿に関してここでは簡単な紹介にとどめておけば良いと考える。
(オブザーバー)

- 広大な敷地があるので、大宮操車場跡地のように、車両基地の歴史など、明治から現在の鉄道につながる説明があると良い。(委員)
- 信号機土台部は移築されるため、信号機の役割、見せ方に新たなものが出てくるのではないかと。歴史の側面から離れることがあっても良いと思う。(委員)
- 鉄道がここから始まり、全国へ広がっていったということが大切なコミュニケーションポイントである。現在とどう繋がっているかという視点を保ちながら、その繋がりを計画に活かしてほしい。(委員)
- 公園部、第7橋梁部で計画されている展示スペースの規模では、通路を考慮すると正味展示できる面積は少なく、展示内容は厳選する必要がある。(委員)
- 文化創造棟で展示していく予定はあるか。(委員)
 - ← 展示物というよりは公園部に人を誘うという役割を担い、公園部へ意識が向かうような仕掛け等を取り入れたいと考えている。(委員)
- 鉄道技術発展史がわかるように、日本で最初の鉄道の話と、最新のリニアの話の対比があると良い。(委員)

(2) 信号機土台部の移築保存の検討について

- 事務局としては、ただ移築するのではなく、遺構の移築等を通して来訪者に伝えるべき内容とその表現の仕方、移築保存だからできることがあると考えており、史跡のガイダンス施設の機能を持たせるためにも意見をいただきたい。(事務局)
- 写真では木杭も移築されているように見えるが、水面部分では移築物はないと記載されている。想定を教えてください。(委員)
 - ← 移築物はないと考えている。(事務局)
 - 安全面への配慮や木杭の劣化への対処等、難しいこともあるが、遺構・特徴・風景を残すという観点から、最前列の木杭は残しても良いのではないかと。(委員)
 - ← 木杭が表に出ると劣化が進むため、レプリカで表現した方が良い。(委員)
 - ← ガラス床にしてその下に木杭を置くこともできるのではないかと。(委員)
 - アクリルのルーセントフロアのようなものをデザインするということであると想定する。(委員)
- サンクンの下に置いてしまうと信号機だけが突き出しているように見え、少し残念である。盛土の断面も見せたいので、視界を阻害するという欠点はあるが、大きなものを置くことはありだと思う。(委員)
- 移築を実施するのは誰か。また、移築先の土地の所有関係の状況、移築後の維持管理者を教えてください。(オブザーバー)
 - ← 移築は JR 東日本が実施する。移築先の土地は再開発準備組合地権者等の共有予定となり、将来的な維持管理方法については決まっていないため、今後の JR 東日本との協議で決めていくことになる。(オブザーバー)
- 信号機土台部は「記録保存」となっているが、現状残っているのは表面の石、十字の木組みだけで、木杭は残っていないと思う。この材料だけで「復元」や「移築」とすると、一般の方の誤解を招くのではないかと。遺構自体は不動産のことを指すので、信号機土台部を「移築遺構」とするのは名称としては適切ではないと思う。(オブザーバー)

- 高さについては、本来の築堤のレベルの高さにするのか、モニュメントしての見せ方を優先するのかを整理するべきだと思う。(オブザーバー)
 - ← 委員会にて議論いただきたい。(事務局)
- 視線への配慮という与条件しかない中で、どこまでが決まっている事項なのか。(委員)
 - ← 提示した図面は、再開発準備組合で都市計画手続き等を進めるにあたり、申請上の必要性から仮にプロットしたものと理解いただきたい。(オブザーバー)
 - 現在、保存の観点からのみで検討されているが、広場の観点からも検討が必要である。一体的なものとして検討すること。(委員)
- 元の築堤位置から微妙にずれていて、認識を混乱させる恐れがある。遺構としての保存よりも材料が幾分かあるという方が近いと思うので、復元・再現よりも「実物を一部使った模型」の位置付けとすべきかを含めて検討した方が良いと思う。技術的な詳細が目に見えて表現できるところも他にないため、作っている順番を示す工夫などがあった方が、かえって築堤の理解が進むのではないか。(委員)
 - ← 信号機土台部の有するガイダンス機能という観点からは、元の位置から少しずれている、という状況は間違った情報を与えてしまう恐れがある。発掘位置との対比ができるようにするなど検討してもらいたい。(オブザーバー)
- 「史跡のガイダンスともなる」とあるが、モニュメントではなく、表面には遺物の石材を展示する計画とすること。(オブザーバー)
- 信号機土台部の 30m という幅はそもそもどのように決まったのか。本当にこれだけの幅が必要なのか疑問に思った。(委員)
 - ← 信号機土台部の 30m については調査保存等検討委員会において、弧を描く形状や位置関係も含めてその程度が一番良いだろうと助言をいただき、事業者として定めたものである。(オブザーバー)
- 広場が整備された後に信号機土台部が移築されるとなると、広場自体が、地域住民にとっての使い心地の良い場所、使われている場所になっているなかで、地域住民にネガティブな印象を持たれることにならないか。まちびらき後、地域住民がどのような動線でどのような使い方をし、普段ここを使う人々が外から来る人々をどのように振る舞うのかを含め、事業をどのような位置付けで実施するのかを考える必要がある。(委員)
 - ← 広場の整備と同時に信号機土台部が移築される予定である。(関係者)
- ガイダンス施設としての用途だけではなく、高さを調整することによる活用の仕方もある。駅側から見通したときにどう見えるかも視点として重要である。またサンクンの深さをどの程度にするのか、来街者がどのようなイメージを持ち楽しむのか、イメージを膨らませて考えてほしい。(委員)
 - ← 駅側からの視点はぜひ作ってほしい。(委員)
- 様々な意見が出された。与条件として変更できないことなどを含め、事務局で整理し、次回どのような議論とするのか考えること。場合によっては、保存活用計画策定時の先生に確認いただくこともあるかもしれない。(委員)

(3) 区画道路 2 号の構造について

- 前回委員会において、3 街区の建物側からの視点について、歩専道と第 7 橋梁の間に隙間があった方がのぞき込みやすく、暗い空間も改善されるのではないかと、歩専道幅員が減少しても良いのであれば、ボックスカルバートの張り出し部分を短くすることも可能ではないかと、興味のある人は近寄って見たいはずであり、その場合は区画道路 2 号のほうに来るのではないかと、といった

指摘をいただいた。これを受け、区画道路 2 号側からより近い位置で史跡を見ることができ
る設えを検討した結果、第 7 橋梁側の道路レベルを一部下げる案を示す。(事務局)

- 区画道路 2 号のボックスカルバートについて、ボックスカルバートと石積みとの隙間の塞ぎ方、
遺構に影響のないボックスカルバートの置き方、ボックスカルバート底版高 (TP+0.15) と水面
高 (TP±0) という 3 点の検討課題をいただいた。石積みとの隙間の塞ぎ方については、補強マ
ット一体止水シートを石積み側に設置した上で、流動化処理土の使用を検討している。ボックス
カルバートの置き方については、石積みと同様に補強マット一体止水シートを設置した上で、基
礎部及びボックスカルバートの設置を検討している。底版高と水面高については、ボックスカ
ルバート底版に高強度材料等を用いて底版厚を 350 mm から 300 mm に変更すること、基礎部を 300
mm から 200 mm に変更すること、ボックスカルバート基礎の床付け高を 100 mm 深く設定し、既存
石敷きの一部は均しコンに巻込む形で水面以下とすることを検討した。(オブザーバー)
- 前回私が指摘した事項を三点とも実施いただき、対応に感謝する。(委員)
- コンクリートによる遺構への汚染を危惧していたが、シートの施工で対応するとのこと
で今後も安心できると思う。(委員)
- コンクリート等の重さが遺構に影響することはないと考えて良いか。(オブザーバー)
← 遺構への影響を配慮し、荷重を分散させる目的でボックスカルバートを選択している。(オ
ブザーバー)
- 詳細な設計に入って良いと思う。(委員)
- 区画 2 号の整備形態の方針については、引き続き東京都と協議している状況であり、進捗があ
り次第報告する。(事務局)

5 その他

(1) 広場(新東海道)名称について

- 前回委員会において、もう少し鉄道があったということを想起させる名称にならないかとアド
バイスをいただき、再考した。新たな名称は「高輪リンクライン」としたい。(事務局)
- 鉄道感が含まれて良くなったと思う。(委員)
- 今後、名称についてはプレス発表する予定か。(委員)
← まだ具体的な予定はないが、周辺も含めた中で発表等をしていく。(事務局)
→ ペDESTリアンデッキが「新東海道」となるのか。(委員)
← そこも含め検討中である。(事務局)

(2) その他ご意見等

- 活用について、整備計画なのでどこまで具体的にできるのか、この 10 年で何をしたいのかを JR
に示してもらったうえでの議論としないとまとまりがなくなってしまう。(オブザーバー)
- 信号機土台部の「移築」という言葉の使い方については、誤解を招きかねない。方法、名称につ
いても検討した方が良いと思う。(オブザーバー)
- 区画 2 号のボックスカルバートについては、助言いただいた内容も含めて設計を進めていき
たい。(オブザーバー)

要旨以上